

信州大学耳鼻咽喉科頭頸部外科専門研修プログラム

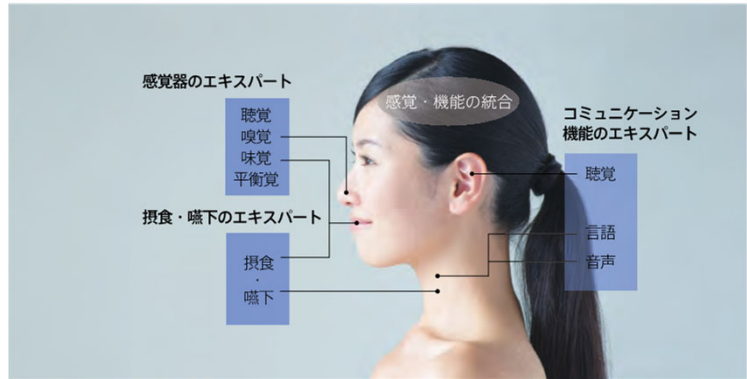
診療科の特色

信州大学医学部耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教室は1949年(昭和24年)に開講しました。「よき臨床医の育成」と「疾患の解明や治療法につながる基礎研究」を理念に、多くの同門会員が長野県内はもとより全国で活躍しています。また、これまでの研究成果は国際的にも高く評価されています。医学の進歩に伴い、医療はより高度で専門的な分野へと細分化されてきており、患者さんは専門性の高い診断と治療を求めています。

耳鼻咽喉科頭頸部外科は、感覚器、摂食嚥下、コミュニケーション機能を扱うエキスパートであり、多彩なサブスペシャリティが存在していることが大きな魅力です。

私たちとともに、21世紀の耳鼻咽喉科・頭頸部外科を創っていきましょう。

耳鼻咽喉科・頭頸部外科で扱う感覚と機能



豊富なサブスペシャリティ



耳鼻咽喉科・頭頸部外科医

専門研修の魅力

- 耳鼻咽喉科専門医を目指し、基礎から応用まで幅広い疾患を経験します。
- 耳鼻咽喉科が扱う領域は非常に広く、各分野の研究も盛んであるため、深い知識が求められます。また、内科的治療のみならず手術を必要とする疾患も多く、適応の判断、術式の選択、手術、周術期管理、外来での経過観察までを総合的に学びます。
- 研修段階に応じたカリキュラムのもと、患者さんに寄り添い、確かな知識と技能、思いやりを備えた専門医を目指します。

耳鼻咽喉科頭頸部外科専門医の理念と使命



耳鼻咽喉科・頭頸部外科医師としての人格の涵養につとめ、耳、鼻・副鼻腔、口腔咽喉頭、頭頸部の疾患を外科的・内科的視点と技術をもって治療する。他科と協力し、国民に良質で安全な標準的医療を提供するとともに、さらなる医療の発展にも寄与することを耳鼻咽喉科専門医の使命とする。

(日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会 専門研修プログラム整備基準より)

信州大学耳鼻咽喉科頭頸部外科 専門研修プログラムの目的



信州大学耳鼻咽喉科専門研修プログラムでは、耳鼻咽喉・頭頸部領域において、標準的かつ良質で安全な診療を提供することができる専門医の育成を行うことを目的とする。そのために、小児から老人までのさまざまな年齢層の患者、急性期から慢性期までの疾患を取り扱い、幅広い臨床能力が身につくよう研修を行う。また、それぞれの疾患に関して科学的な考察能力が習得できる研修を行う。

研修期間: 令和9年4月1日～令和13年3月31日

【プログラム概要】

信州大学耳鼻咽喉科頭頸部外科専門研修プログラムでは、専門研修基幹病院である信州大学病院と、地域の中核医療をになう病院群(連携施設A:長野赤十字病院、信州上田医療センター、諏訪赤十字病院、飯田市立病院、伊那中央病院)、地域医療を担う病院群(連携施設B:北信総合病院、長野松代総合病院、長野市民病院、篠ノ井総合病院、相澤病院、岡谷市民病院)、および東京での専門病院(連携施設C:国際医療福祉大学三田病院)の計12施設で研修を行うことができます。

各施設の特徴を活かした研修を行うことで、専門医制度機構が示す研修到達目標および症例経験基準を満たす研修が可能です。大学病院での高度医療および地域医療を経験することで、幅広い視野を持った専門医を育成します。

【プログラムの特徴】

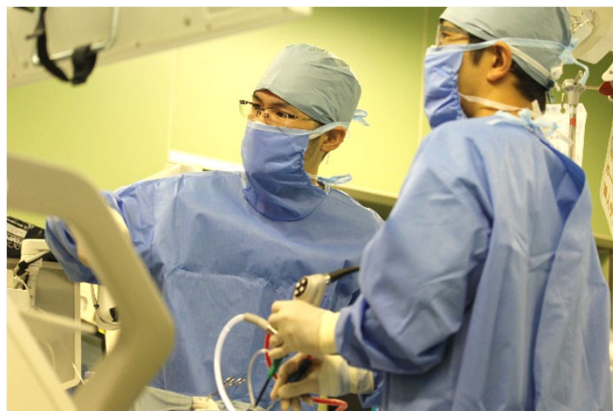
本プログラムは、耳鼻咽喉科頭頸部外科専門医に求められる標準的な診療能力を備えた専門医の育成を目的としています。基幹施設である信州大学医学部附属病院では高難度医療を経験することができ、これらの症例を通じて標準的医療に加え最先端医療も学ぶことができます。また、長野県内の研修施設と東京都内の連携施設をローテーションすることで、地域医療から都市部の医療まで幅広く経験できます。さらに、疾患の本質を理解し適切な治療を行うための科学的思考力を養うことも、本プログラムの重要な特徴です。

このような背景から、本プログラムの特徴は、

- ① 研修可能な疾患構成のバランスが保たれている。
- ② ローテーションにより、common diseaseから複雑な病態、稀な症例まで幅広く学ぶ機会がある。
- ③ 最先端の研究に裏付けられた医療を学ぶことができる。
- ④ 大学院と同時進行の研修も選択でき、臨床と結びついた基礎研究の経験が可能。

【基幹病院での研修】

信州大学医学部附属病院から始まる研修では、耳鼻咽喉科の基本手技、検査、診療技術を学びます。頭頸部悪性腫瘍、聴覚、めまい前庭疾患、音声嚥下などの専門外来をローテーションし、各領域の代表的な疾患の診断・治療や経過観察におけるポイントを指導医とともに経験します。入院・手術症例についても、疾患ごとに分かれた診療チームをローテーションしながら、入院管理、手術プランニング、他科との連携などを通じて、各症例を深く検討します。診療班は3つに分かれており、入院管理はチーム制となっています。各チームで屋根瓦式の指導を受けることができます。



《 基幹病院での週間スケジュール 》

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
AM	手術 病棟 一般外来	< 専門外来 > 難聴・副鼻腔 腫瘍・睡眠音声	手術 病棟 一般外来	< 専門外来 > 難聴・顔面神経 腫瘍・めまい	手術 病棟 一般外来
PM	手術 病棟	< 専門外来 > めまい 突発性難聴	手術・病棟 < 専門外来 > 補聴器	総回診	手術 病棟 一般外来
	腫瘍カンファ 睡眠音声カンファ	めまい・副鼻腔 カンファ	難聴カンファ 放射線カンファ	診療会議 医局会	

- 手術日は(月)(水)(金)で、3つの診療チームに分担される。予定手術がないチームは外来業務を担当する。
- 専門外来は主に(火)(木)で、指導医とともに診療にあたる。
- 診療チームおよび専門外来は3~6ヶ月ごとにローテーションし、各種検査や疾患について研修する。
- 各種カンファレンスでディスカッションと知識の整理を行う。
- 月曜日の夕方などに研修医、専攻医の勉強会として、予定手術症例に関して文献的考察を含め学ぶ。
- 耳鼻咽喉科頭頸部外科関連の研究会・勉強会のほか、国内外の著名な講師による講演会が、年に数回開催される。
- 院内の医療安全、倫理、感染対策などに関する講習会に参加する。
- 初年度の後半に地方部会での発表を行う。
- 専門研修の期間に、日耳鼻総会・学術講演会および日耳鼻秋季大会に各1回以上参加する。
- 全体の研修(4年間)を通じて、筆頭著者として論文を1編以上執筆する。
- 日耳鼻が認定する「検査に関する実技講習」に4年間で1回以上参加する。



《 専門研修の方法 》

1. 臨床現場での学習

- 診療科におけるカンファレンスおよび関連診療科との合同カンファレンスを通して病態と診断過程を深く理解し、治療計画作成の理論を学ぶ。
- 抄読会や勉強会での学習を通じ、インターネットによる情報検索を行い、臨床に反映させる。
- Hands-on-trainingとして積極的に手術の助手を経験する。その際に術前の準備、およびイメージトレーニングを徹底し、術後の詳細な手術記録を作成する。
- 手術手技をトレーニングする設備や教育ビデオなどを積極的に利用する。
- 実際に術者として行った個々の手術記録を詳細・正確に記載し専門研修指導医の評価を受ける。
- 主治医として治療した経験症例を症例記録簿に登録し、研修の記録を残し、未経験の症例がないよう専門研修指導医、プログラム統括責任者とともに調整する。

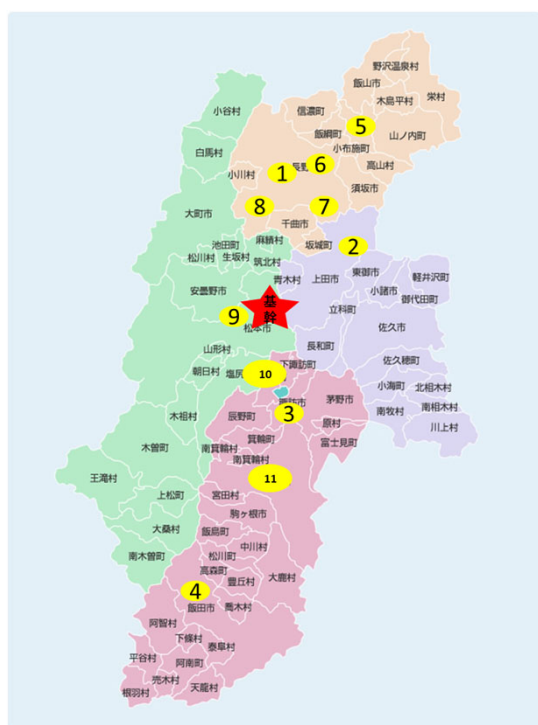
2. 臨床現場を離れた学習

耳鼻咽喉科学会総会、専門医講習会、関連学会でのセミナー、講習会への参加、国際学会への参加を通して国内外の標準的治療および先進的・研究的治療を学習する。さらに、専門研修委員会認定の医療倫理に関する講習会、医療安全セミナーやリスクマネジメント研修会、感染対策に関する講習会に参加し、研修記録に記録する。

3. 自己学習

研修カリキュラムに示されている項目を全て説明、解決策などを提示できるように日本耳鼻咽喉科学会会報、Auris Nasus Larynx(日本耳鼻咽喉科学会英文雑誌)、耳鼻咽喉科学会・関連学会で作成されているガイドライン、英文雑誌、e-learningなどを活用して学習する。

	施設名	指導医	役職	専門分野
基幹施設	信州大学医学部附属病院	工 穰	教授	耳科全般、咽頭喉頭
		鬼頭 良輔	准教授	頭頸部腫瘍
		塚田 景大	講師	鼻副鼻腔、めまい
		吉村 豪兼	講師	耳科
		岩佐 陽一郎	講師(学部内)	頭頸部腫瘍
		森 健太郎	助教	鼻副鼻腔 めまい
		宇佐美 真一	名誉教授	耳科(中耳、人工内耳)
		品川 潤		耳科
連携施設	長野赤十字病院	大島 章	副部長	耳鼻咽喉科一般
		小林 孝光		耳科
連携施設	信州上田医療センター	鈴木 宏明	医長	耳科、耳鼻咽喉科一般
		堀 由希子		頭頸部
連携施設	諏訪赤十字病院	我妻 道生	部長	耳鼻咽喉科一般
連携施設	飯田市立病院	塚本 耕二	部長	頭頸部
		市瀬 彩	副部長	耳鼻咽喉科一般
連携施設	北信総合病院	内藤 武彦	部長	耳鼻咽喉科一般
連携施設	長野市民病院	横溝 道範	頭頸部外科 部長	頭頸部
連携施設	長野松代総合病院	矢野 卓也	部長	耳鼻咽喉科一般
連携施設	篠ノ井総合病院	浅輪 史朗	部長	耳鼻咽喉科一般
連携施設	相澤病院	茂木 英明	統括医長	耳鼻咽喉科一般
連携施設	岡谷市民病院	梅垣 油里	部長	耳鼻咽喉科一般
連携施設	伊那中央病院	横田 陽	主任医長	耳鼻咽喉科一般、頭頸部腫瘍
		高橋 優宏	教授	耳科(中耳、人工内耳)
連携施設	国際医療福祉大学 三田病院	古舘 佐起子	病院講師	耳鼻咽喉科一般



- 1: 長野赤十字病院
 - 2: 信州上田医療センター
 - 3: 諏訪赤十字病院
 - 4: 飯田市立病院
 - 5: 北信総合病院
 - 6: 長野市民病院
 - 7: 長野松代総合病院
 - 8: 篠ノ井総合病院
 - 9: 相澤病院
 - 10: 岡谷市民病院
 - 11: 伊那中央病院
 - 12: 国際医療福祉大学 三田病院
(東京都港区)
- 合計: 12施設

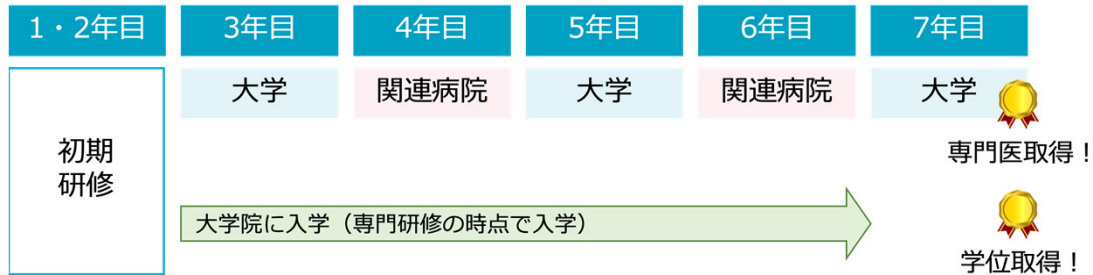


サブスペシャリティー・学位取得の道筋

【年次毎の基本的研修プラン】

本研修プログラムでは、各専攻医の希望に沿ったキャリア形成を考慮し、専門医取得に必要な条件を十分に満たしながら、可能な限りフレキシブルな研修選択を可能にしています。

信州大学医学部大学院は、初期臨床研修から入学が可能であり、そのための奨学金制度も用意されています。高いレベルの臨床医になるためには、基礎研究の経験が重要であることから、開始時期に関わらず、大学院への進学を推奨しています。社会人大学院生として、有給のまま研修と研究を両立することも可能です。大学院入学の時期により、学位取得の時期は異なりますが、例えば後期研修開始時に大学院に進学した場合、専門研修後に専門医と学位のいずれの取得も可能となります。大学院と専門研修を並行して進めることにより、疾患や各症例に対する深い洞察力と問題解決能力を養います。



※あくまで研修コースの基本パターンであり、例えば修学資金貸与制度を利用している専攻医には対象となる病院での研修を実施しています。

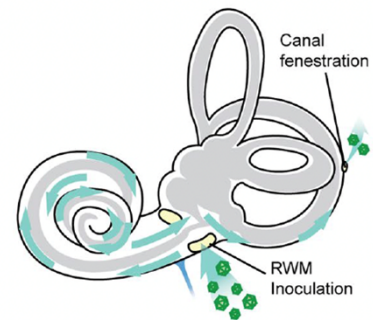
大学院での研究テーマ、臨床研究のテーマなど

信州大学医学部耳鼻咽喉科頭頸部外科学教室では、これまで日本人における難聴の遺伝子診断をはじめ世界トップレベルの研究が行われ、多くの知見を国内外へ発信してきました。現在も、耳科領域では「難聴の遺伝子治療」、頭頸部領域では「頭頸部癌の病態解明と新規治療開発」に関する研究が活発に行われております。その一部をご紹介します。

難聴の遺伝子治療に関する研究

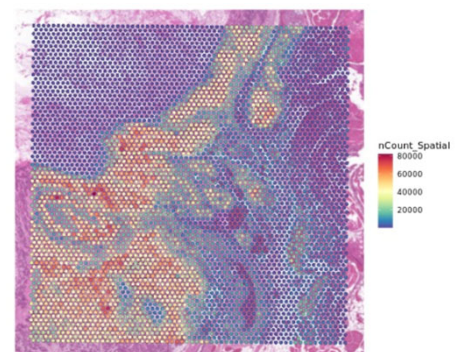
従来、感音難聴に対する治療は手術が可能な伝音難聴と異なり、補聴器や人工内耳でした。いずれも有効な治療ですが、あくまで対症療法であり、根治的治療としての遺伝子治療が期待されていました。これまで当教室が発信してきた動物モデルを用いた研究成果を含めた国内外からの報告を元に、現在ヒトを対象とした遺伝性難聴に対する遺伝子治療の企業治験が世界各国で実施されており、優れた治療成績が報告されています。しかし、対象遺伝子の拡大や長期間の安定した治療効果を実現するためには依然として克服する必要がある課題が山積しており、当教室では難聴に対する遺伝子治療における今後の更なる進歩のために研究を実施しております。

RWM injection with semicircular canal fenestration in PSCC



頭頸部癌の病態解明と新規治療開発

当科では「どの細胞が、どこで、どの遺伝子を発現しているのか」を解析できる、空間的遺伝子発現解析を用いた研究を中心に進めています。これにより、腫瘍細胞だけでなく、周囲の間質や免疫細胞を含めた腫瘍微小環境を空間的に把握し、浸潤や治療抵抗性の獲得に関わるメカニズムの解明を目指しています。また、共同研究として、患者由来がんモデルの樹立や、頭頸部癌へのCAR-T細胞療法の応用を目指した研究にも取り組んでいます。頭頸部癌は未だ治療の難しい患者も多く、病態解明と新規治療開発が重要な課題です。当科では臨床で得られる知見や検体を活かしながら、将来の治療につながる研究を継続して行っています。



国内留学・海外留学

当教室は国内外および期間を問わず、留学を推奨しています。
下記のような留学例があります。

難聴原因遺伝子の解析

・Department of Otolaryngology, University of Iowa, 米国.

内耳遺伝子治療に関する基礎的研究

・Department of Otolaryngology Head and Neck Surgery, University of Kansas, 米国.

内耳らせん神経節の再生に関する研究

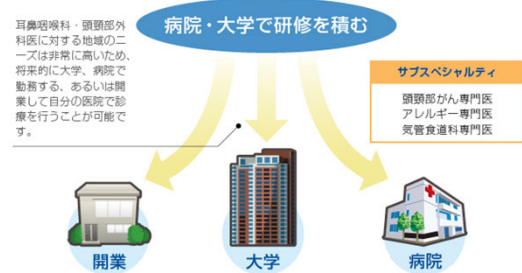
・Department of Otolaryngology Head and Neck Surgery, Keck Medicine of USC, 米国

国内留学(短期レジデント)

・国立がんセンター東病院(頭頸部外科・頭頸部内科)

将来の就職先など

県内ほとんどの病院が関連病院で、常勤の耳鼻咽喉科医を必要としております。残念ながら、大都市の総合病院でも耳鼻咽喉科の常勤医が不在なところがあり、今後2倍に増えたとしても充足できない状態ですので、就職先に困ることはありません。大学で研究を継続する、関連病院で外来・手術を中心に勤務する、また開業して地域医療に貢献するなど、様々な進路があります。



先輩からのひとこと

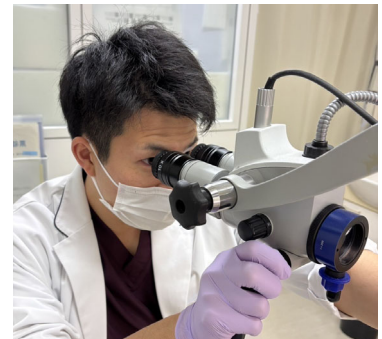
耳鼻咽喉科専門研修医師(1年目)

初期研修が始まった当初、私は将来の診療科を決めきれず、内科・外科・マイナー外科など様々な分野で悩んでいました。最終的に、内科系・外科系の両方の要素を持つ診療科として、耳鼻咽喉頭頸部外科を選びました。

実際に診療に携わると、耳・鼻・頭頸部にわたる幅広い疾患を経験できることに魅力を感じました。診断から手術、治療、フォローアップまで一貫して担当できるのは、当科の強みです。また、生活の質に直結する診療が多いため、患者さんの「良くなった」という実感を早期に得られる点も、大きなやりがいにつながっています。

信州大学では、「耳」「鼻」「頭頸部腫瘍」の3つのグループに分かれ、それぞれの分野で外来・病棟管理・手術を学ぶことができます。入局後は早くから様々な仕事を任せられ、責任も大きいですが、指導医の先生方が熱心にサポートして下さるため、日々成長を実感できる環境です。

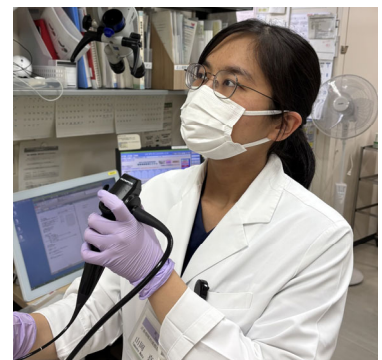
当科では、1年目から医局の一員として活躍できるため、とてもやりがいがあります。少しでも耳鼻咽喉科に興味がある方は、ぜひ一度見学にいらしてください。医局員一同、心よりお待ちしております。



耳鼻咽喉科専門研修医師(1年目)

耳鼻咽喉科頭頸部外科の魅力の一つは、狭い領域の中で多種多様な機能が存在し、聴覚・嗅覚・味覚といった感覚や睡眠・音声・嚥下など患者さんのQOLに大きく関わる点です。また、口蓋扁桃摘出術など1年目から執刀医として手術を経験する機会があり、当教室でも入局後から病棟業務、外来診療、手術を経験しています。乳児からご高齢の方まで幅広く、初診、手術、外来フォローを一貫して診療していく中で、患者さんの力となることにやりがいを感じています。学ぶこと、悩むことも多いですが、教育熱心で尊敬できる先輩医師の先生方、共に学ぶ同期に支えられて、日々励んでおります。

当教室では側頭骨実習で実際の手術器具を用いて解剖を学ぶ取り組みがあり、学会でも他科では関わりの少ない様々な機器や処置を体験する機会があります。少しでも耳鼻科に興味をお持ちの方は見学にお越し頂けたら嬉しいです。



連絡先

信州大学医学部耳鼻咽喉科学頭頸部外科学教室 教授:工 穰 統括医長:吉村 豪兼

■住所:〒390-8621 長野県松本市旭3-1-1 ■電話:0263-37-2666 ■FAX:0263-36-9164

■E-mail : ijibi@shinshu-u.ac.jp ■URL : <http://www.shinshu-jibi.jp>

■専門研修プログラムの詳細は 信州大学医学部附属病院HP 卒後臨床研修センター>専門研修[耳鼻咽喉科頭頸部外科]